



よほろ



舞鶴市立与保呂小学校
学校だより
6月号
令和2年5月29日

「お手伝い」で身に付く力

与保呂川沿いの桜もいつの間にかすっかりと緑の葉につつまれています。臨時休校期間中にはそれぞれのご家庭や地域において「今は我慢」とご指導いただき、また、学習面・生活面で子どもたちを見守っていただいたことに感謝いたします。ありがとうございました。

さて、休校期間中、子どもたちはどのように過ごしていたのでしょうか？「朝がなかなか起きられなかった」「宿題をするか、ゲームをするかぐらいいいか、することがなかった」という声とともに「お手伝いをした」「ご飯を作るようになった」という声も聞かれました。おうちの方がおられない間に洗濯物を取り入れて畳んだり、自分たちで昼食を作って食べたり、家族と一緒に夕食の支度をしたりしていたのでしょう。

お手伝いにはいろいろな効果があると言われています。



お手伝いを頼まれると、子どもは親に信頼されていると感じ、心の土台である自己肯定感が育まれます。また、お手伝いをしたことで「ありがとう」と感謝の言葉をかけられると、「自分は家族の役に立った」「自分は必要とされている」という気持ちを抱き、自信や意欲も高まります。さらに、任されたお手伝いを最後までやり遂げることで、達成感を味わい、責任感が培われます。

お手伝いは何よりも「時間の感覚」を身に付けることにつながります。例えば、料理をするには、その手順を考え、段取りを考えなければなりません。他のお手伝いでも、それが習慣化していれば、「この時間には〇〇をしなければならぬ」ということが体で分かるようになってきます。その習慣や感覚は、「学校から帰ったら何をしなければならぬ」「これができたら遊べる」というふうに、やるべきこと、やりたいことの順番を組み立てるようになるといわれています。

このように、「お手伝いには、たくさんの効果がある」というのは分かっているとしても、私たち大人としては、忙しい中家事を教えるのは一苦労だったり、うまくできなくて怒ってしまったり、結局「もういい！私がやる」と言ってしまうしがちではないでしょうか。子どもが初めてやることだから、下手だったり、適当だったりするのは「当たり前」だと考え、長い目で見ていきたいものです。

休校期間中にしていたお手伝いを続けたり、新しく何かできることを見つけたりして、学校生活だけでは付けられない力を身に付けてほしいと思っています。ぜひ、取り組んでみてください。

学校は6月からは平常授業となります。できる限り感染拡大のリスクを低減させながら、友達や先生との関わり合いや対話などで得られる様々な気付きを大切に、教育活動を進めていきます。

ご家族、地域の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

校長 西井 佳寿美

教職員 一同



お心遣いをありがとうございます

「南舞鶴女性の会」の代表の方がマスクを届けてくださいました。一つ一つ丁寧に縫われた手作りのマスクです。「コロナウイルスにまけるなー」のメッセージもついていました。3年生の代表の児童が受け取り、お礼の言葉の中で「ぼくたちのためにありがとうございます。大切に使います。」と伝えました。学校再開前には、地域の常塚朋子様より1年生の児童へと手作りマスクをいただきました。早速、担任より手渡し、使用させていただいています。今回は2・3・4年生に配付します。

会の方は、プレゼントとともに、「おうちの方々にも地域の者が、こうして子どもたちを見守っていることを伝えてほしい」とおっしゃっていました。

子どもたちは、地域で見守り、包み込まれているという安心感を持つことができます。お心遣いをありがとうございます。

